

犬山市地域公共交通計画(案)についてのご意見の内容と市の考え方

計 画 名	犬山市地域公共交通計画(案)
募集期間	令和 5 年 11 月 1 日(水)から 11 月 21 日(火)まで
公開場所	市役所本庁舎1階ロビー、防災交通課窓口、各出張所(城東・羽黒・楽田・池野)、市立図書館、市民健康館、福祉活動センター、総合犬山中央病院、市ホームページ
意 見 数	7件(提出人数は1名)

(いただいた意見①)

まず63頁に「運転手不足解消に向けた取り組み」が記載されております。大変重要なことで、将来の地域公共交通政策の根幹にもなると考えます。解消に向けた取り組みはもちろんのこと、「運転手が不足している中で市民の足をどう確保していくか」を軸に、バス、デマンド交通、タクシーの効率的な利活用を考えていく必要があります。現状でも高齢者タクシー助成事業のチケットでタクシーを予約しようとしたが、運転手の確保ができず予約が成立しないという声を度々耳にします。タクシー(一般乗用)に課された1個の契約の限界を感じるどころです。また、平日昼間帯の岐阜バスは空席が目立ち、経路上にバス停を設置するなど効率的な利用ができないものかと感じております。既存の地域公共交通(運転手)の効率的な利活用を期待します。

(市の考え方①)

運転手不足が全国的な課題となっている中で、犬山市においても運転手の大幅な増員は見込めないため、既存の公共交通を効率的に活用することで、市民ニーズに添えていく必要があります。そのためには、各交通事業者と連携を図り、事業を実施していくことが重要です。また、市としても公共交通の担当課のみでなく、福祉・高齢者・教育・産業・都市計画などの様々な担当課と共に連携を図っていく必要があると考えています。

(いただいた意見②)

49頁に集約課題「犬山駅や総合犬山中央病院の交通結節点における快適な乗継環境の確保」とあります。ここでは乗り継ぎを考慮したダイヤの見直しについて記載がされていますが、合わせて別路線や逆向きのバスへの誤乗車を防止する取り組みが必要と考えます。

(市の考え方②)

わん丸君バスについては、ブランディングとして全車両を同じラッピングにしています。その結果、認知度は向上していますが、バスの見分けが難しくなっています。誤乗車を防止するために、方向幕の表示のほか、車内外での音声案内や乗務員による声掛けを実施していますが、さらなる対策を検討していきます。

(いただいた意見③)

50頁に集約課題「既存公共交通に新たなモビリティを加え、地域の移動特性に応じた適切な移動手段の確保」とあります。先に述べた運転手の効率的な活用にもつながるのですが、デマンド交通について、もう少し踏み込んだ実証実験が必要であると提言します。わん丸君バスのバス停はダイヤ改正毎に増えていき、8台8路線の限界が見えてきましたが、未だにバス停増設の声が後を絶ちません。現状を鑑みると基本は路線バスだと考えますが、軸と支線に分けた上で、デマンド交通の活用も必要になってきたと感じています。46頁のアンケート結果で、実証実験のデマンド交通を利用しなかった理由で2番目に「目的地が違った」というものがあります。地域住民のニーズを捉えた再度の実証実験に期待します。

(市の考え③)

54頁にて生活交流路線はわん丸君バスが担うと明記しており、今後も基本は路線バスという方針です。ただし、わん丸君バスでカバーできない地域や市民の方もみえるため、デマンド交通又はタクシー車両の活用も含めて、総合的に検討を進めていきます。

(いただいた意見④)

57頁の基本方針4「災害にも安全・安心な公共交通」とあり、評価指標4-2に電気バス1台の導入を目標とあります。電気バスの導入について私は防災とは異なる視点から検討の余地があると思っています。具体的には昨今のバス製造工場の状況からバス車両を購入(確保)する際に幅広く考えなければならなくなったと思っています。しかし運用するとなると急速充電スポットなどの電気バス特有のインフラ整備も欠かせません。そこで1台だと逆に非効率であると考えます。複数台を確保されることも検討されてはいかがでしょうか。

(市の考え方④)

走行距離の性能により、わん丸君バス車両を電気バスとすることは現時点では困難です。環境負荷の低減と、災害時の非常用電源としても活用できるという観点で、電気バス等の導入を、市に限らず、各交通事業者においても推進していければと考えています。

(いただいた意見⑤)

60頁の施策、④「主要バス停の待合環境整備」は、公共交通利用者を増加させていく上で大変重要な施策と考えます。犬山駅や総合犬山中央病院のバス停では着座でバス待ちができるよう、屋根付きベンチの増設を期待します。その他、コンビニと連携してバス停を設置するのも有効な施策だと考えます。

(市の考え方⑤)

特に利用者の多い主要なバス停については、待合スペースの確保が重要であると考えており、可能であれば、屋根付きベンチの設置も検討していきます。また、コンビニや商業施設とも連携を図りながら待合環境の改善に努めます。

(いただいた意見⑥)

61頁の施策、⑧「交通空白地域のニーズに対応した移動サービスの実施」の中でパーソナルモビリティ等の少量輸送の調査・研究とあります。自身がハンドルを握ることを想定しているのであれば、年代によってはレンタルサイクルも有効なモビリティであるため、あわせて調査・研究されても良いと考えます。

(市の考え方⑥)

レンタルサイクル事業を始めている自治体もあるため、調査・研究していきます。

(いただいた意見⑦)

52頁の「犬山市の地域公共交通が目指す姿と基本方針」で、『公共交通が支える安心で快適な暮らしみんなつながるまち』と目指す姿が示されています。63頁の施策、⑩「関係者のパートナーシップの強化」にあるように企業、交通事業者、地域住民、行政がお互いコミュニケーションを図って様々な課題を解決され、目指す姿が実現することを期待します。

(市の考え方⑦)

様々な課題に対応していくためには、関係者が個別で事業を実施するのではなく、協調して進めていくことが重要であると考えておりますので、積極的に連携を図っていきたいと考えています。